

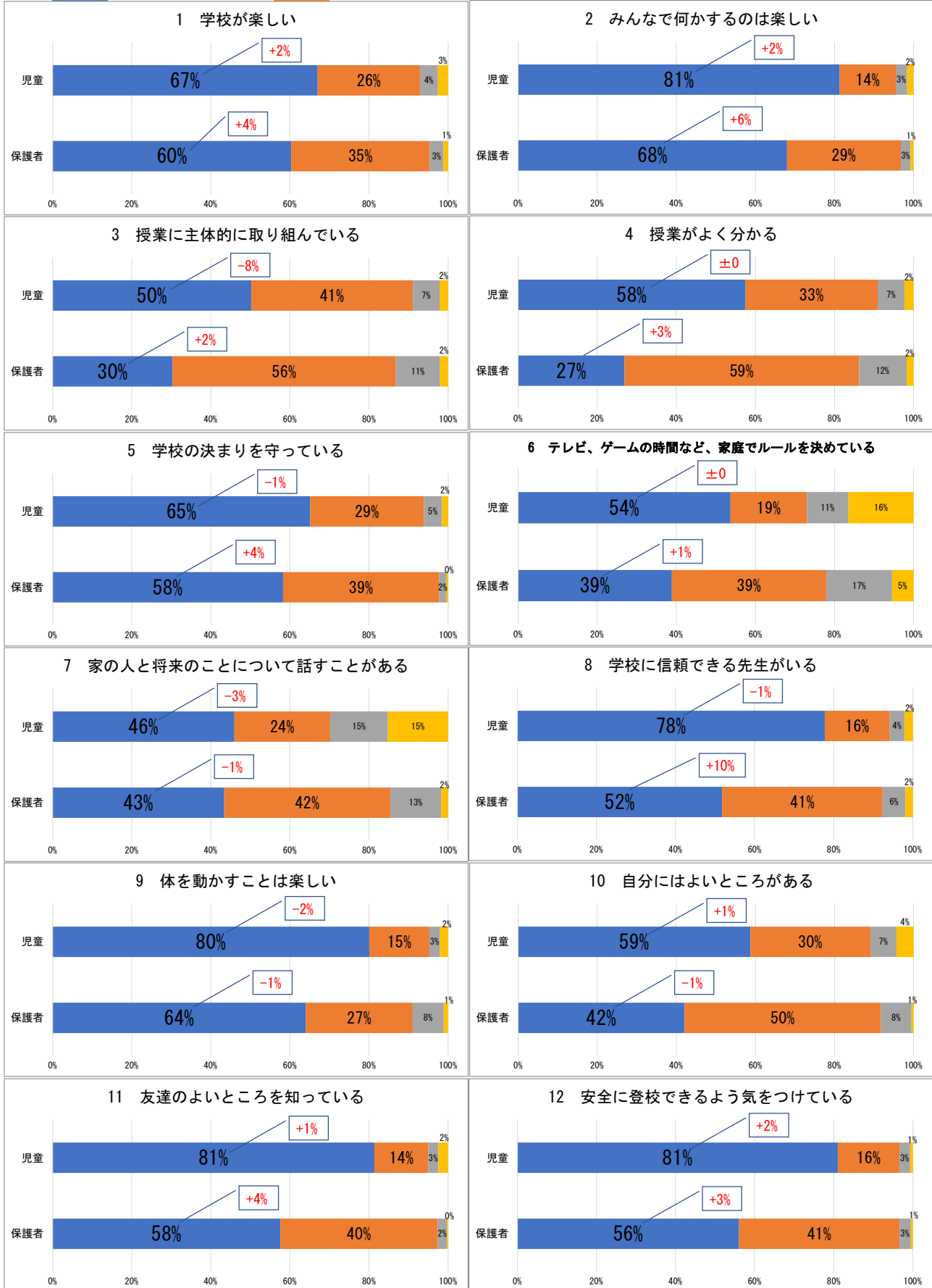
令和3年度 第2回ともえの子アンケート(学校評価)集計

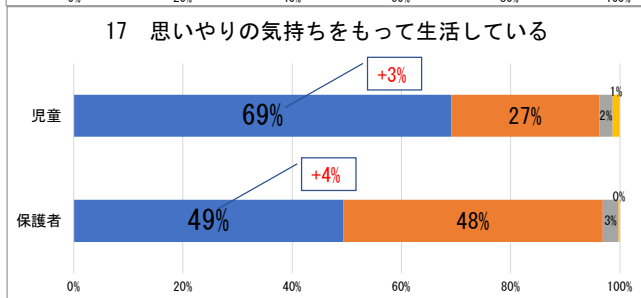
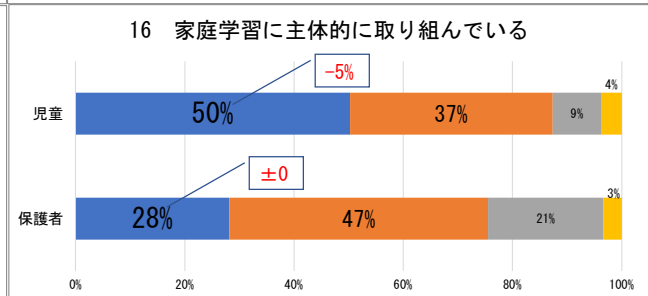
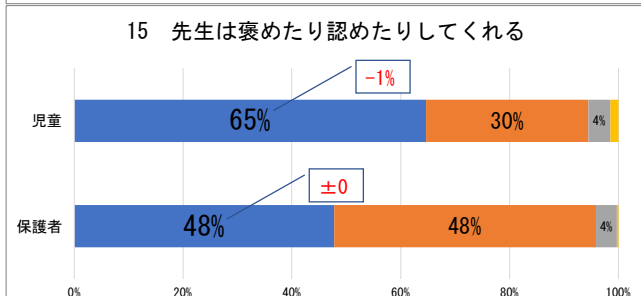
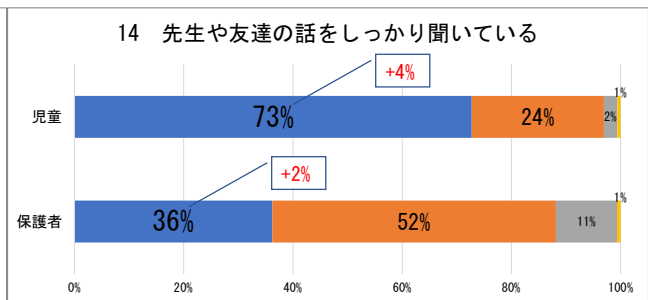
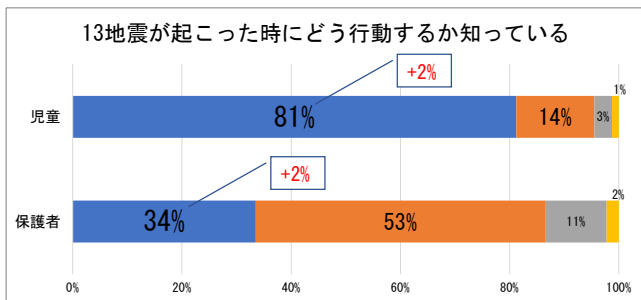
令和3年12月実施

第2回学校評価への御協力をありがとうございました。項目については、児童への質問のかたちで表示しています。

「当てはまる」の割合の増減(赤字)は、第1回(7月実施)との比較です。第1回学校評価の詳細は、「ともえ」第8号に掲載してあります。

「当てはまる」 「どちらかと言えば当てはまる」 「どちらかと言えば当てはまらない」 「当てはまらない」





「1 学校が楽しい」と感じている子供が増加したことは、喜ばしいことですが、「当てはまらない」「どちらかと言えば当てはまらない」と答えている子供たちがいるということを真摯に受け止め、どの児童にとっても楽しい学校づくりに努めてまいります。

「4 授業がよく分かる」という質問に、当てはまると回答している児童は6割弱いますが、自分のお子さんが授業がよく分かっていると感じている保護者は3割にも届いていません。学校においては、子供たちが分かる授業をしていくよう一層努力をしております。一方で、子供たちが「分かったつもりになっていないか」という不安も感じております。御家庭で、ぜひ子供たちに「今日は授業でどんなことを習ったの?」と尋ねてみてください。人に説明できるということは、もっとも理解が深まった状態とも言われます。おうちの人に学校で習ったことを説明することで、学習したことについても理解が一層深まることが期待できます。

「6 テレビ、ゲームの時間などについて、家庭でルールを決めているか」という質問の答えには、かなりばらつきが見られ、家庭によってそれぞれという状況がうかがえます。お子さんが家庭での有効な時間の使い方について自分で考え、実践していくことは、小学校卒業後の中学校生活でも必ず必要となってくることです。小学校6年間でしっかりとその基礎をつくりたいものです。

「10 自分にはよいところがある」と自信をもって答えられる子供はまだ6割です。すべての子供が自分にはよいところがあるということを感じられるよう適切なタイミングでボイスシャワーをかけることができるよう私たち大人が、もっと子供の姿に目を向け、子供に接していかなければならないと感じます。